

8月の事務ごよみ

民族の音楽



きり絵と文・前田尋

ムカム

中国北西部、新疆ウイグル自治区や中央アジアに住むウイグル族は、
ペルシャ文化を受け継ぎ、
ムカムと呼ばれる伝統音楽を奏する。
「2本の弦」を意味する弦楽器ドゥタールは
長い棹で繊細な調べを奏でる。
青空に吸い込まれてゆく音は、懐かしく響き渡る。

経理・税務

年度後半に向けての 資金繰り対策の確認

8月は夏休みや旧盆などの影響もあり、一般に営業活動は低調な時期といわれます。

その一方で、夏物商戦の仕入代金の決済時期に当たるなど、支出は例月並み以上になることが多いため、どうしても資金繰りがタイトになりがちです。

どこから、いつ、いくらの入金があるかをしっかり確認して、資金繰り計画を立てましょう。

なお、3月決算の企業では、10月から年度後半に入ります。下期の売上・利益計画、資金計画の進捗状況や計画との乖離をチェックし、早めに対策を練りたいところです。

夏物商戦の売残り品の 処理

8月も半ばを過ぎると、夏物商戦は終盤を迎えます。見込み違い

などにより売れ残り品が出た場合は、商品別に数量と金額をリストアップして評価損計上を判断し、計上する場合には証拠資料の整備などを行います。

通常と異なる特売セールなどでは、どうしても販売が最優先され、経理処理がおろそかになりがちです。税務上の留意点を再確認のうえ、ミスのない処理を心がけましょう。

12月決算法人の 中間申告と納税

8月は、12月決算法人の中間申告・納税月です。

中間申告には、前年度の確定法人税額の2分の1を納税する「予定申告」と、期首から6か月間（上半期）の利益・損失に基づいて納税額を計算する「仮決算」の2つの方法があります。

どちらを選ぶかは企業に委ねられていますが、一般的には、上半期の実績が前年同期と同様であれば予定申告を、著しく悪化している場合は仮決算を選ぶようです。

事務負担なども考慮して自社に適した方法を選びましょう（ただし、納税額によっては、予定申告に限定される場合もあります）。

夏祭りへの寄附などの 処理

8月は、各地で夏祭りや納涼イベントが催されます。地域密着型の企業では、参加する機会もあるでしょう。

会社が提供する社名入りのうちわやタオル、手拭いなどは、原則として広告宣伝費となりますが、現金の寄付や人員の派遣などで生じる費用は、税務上の問題が起これやすいので注意が必要です。

たとえば、事業との関連性や支出の目的、供与のしかたなどによって、寄附金か交際費等かが区分されます。

税務調査への備え

確定申告の処理が一段落した7月は、税務署内で人事異動が行なわれます。それから業務の引継ぎ、調査法人の選定などを経て、本格的に税務調査に向けて動き始めるため、毎年8月後半から11月にかけては、税務調査のピークを迎えます。

いつ税務調査が入っても問題ないように、自社の処理を確認し、きちんと説明できるようにしておきましょう。

売掛金の管理・回収の 徹底

年度後半に向けて、与信限度枠の見直し、信用状態のチェックなど、得意先の与信管理を徹底しましょう。

帝国データバンクの調査によると、2024年度の倒産件数は1万70件（前年度比13・4%増）と、3年度連続の増加で、11年ぶりに1万件を超えました。

業種別倒産件数では、全業種で前年度を上回り、倒産件数最多のサービス業（2638件、前年度比20・6%増）は、2000年度以降最多となりました。

倒産主因としては、「販売不振」（8261件）が全体の82・0%を占め、「売掛金回収難」（49件）、「不良債権の累積」（16件）などを含めた「不況型倒産」は389件（前年度比17・2%増）でした。

価格交渉・価格転嫁の 推進

中小企業庁によると、2024年10月～2025年3月において価格交渉が行われた割合は89・2%、価格転嫁率は52・4%だった。

8月の事務ぐよみ



たこのことです。

発注企業からの申し入れで価格交渉が行なわれた割合が増加するなど、価格交渉ができる雰囲気があるに醸成されつつある一方、「価格転嫁できた企業」と「できない企業」の二極化が明らかとなっています。下請法や独占禁止法の規制も確認しつつ、価格転嫁をさらに進めていきましょう。

人事・労務

来春新卒予定者の採用活動

8月は、夏休みを利用して企業の就業体験に参加したり、地元で就職活動をしたりする学生が増えるなど、採用活動が活発になる時期です。

コロナ禍以降、学生はオンラインでの情報収集、情報交換、さらには会社説明会を重視するようになりました。

都会の学生が地方の企業の、地方の学生が都会の企業の情報を得る機会が広がったともいえます。

企業にとってもオンラインを活用することで、いままで出会う機会がなかった学生との接点が生まれる可能性もあります。今後はWeb面接なども定着すると考えられますので、効率的な進め方を検討するとよいでしょう。

夏場の健康管理

夏場は暑さと湿気で、疲労がたまりやすい時期です。疲労が原因で業務災害や通勤災害が発生することを防ぐため、就業中は適度に休憩させるなど、社員の健康管理と安全対策を徹底しましょう。

屋内でも脱水症状や熱中症になることがあります。睡眠不足や不規則な生活も体調不良になりやすくなる原因なので、自己管理に留

意させましょう。

パート・アルバイトのシフト管理

夏物商戦の期間中、パート・アルバイトを増員している企業では、個々のスケジュールを把握して、早めに勤務シフトの調整を行ないましょう。

一定の条件を満たせば、パート・アルバイトにも年次有給休暇を付与する義務が生じます。繁忙期に人手不足に陥って業務に支障が出ないよう、シフトの管理には十分留意してください。

交通事故発生時の対応確認

2024年の交通事故死者数は、全国で2663人（前年比マインス15人）でした。2年ぶりの減少で、1948年以降3番目に少ない数字となりました。

自動車運転の安全教育が重点的に行なわれる時期は、入社時や事故発生時が多いですが、慣れによ



る油断、加齢に伴う身体能力や判断力の低下も想定されます。勤務年数や年齢に応じた教育プログラムなど、社内の交通安全教育に力を入れましょう。

また、社員が業務中や通勤途中に交通事故を起こしたり、巻き込まれたりした場合の対応（事故直後の対応）などについても、きちんと確認しておきましょう。

総務・法務

夏季休暇前後の事務

夏季休暇を実施する企業では、その前後の事務や連絡をミスやモ

レのないように行ないましょう。

休暇前の業務としては、取引先などへの対外的な挨拶や連絡などがあります。また、休暇後には、郵便物の関係部署への速やかな配付、社員の勤怠管理の徹底といった業務があります。

最近では、夏季休暇を各担当者の取引先の休暇日程に合わせて取得したり、希望日を個人単位で申請するケースも増えています。休暇中に業務が滞ることがないように注意しましょう。

建物・設備などの点検・修理

業種や業態にも異なりますが、8月が閑散期に当たる企業では、緊急性はないものの、普段手をつけられずに気になっていたことに着手するのもよいでしょう。

建物や設備の点検・修理はその代表的なものです。不具合があれば、この時期によく点検して、必要に応じて修理や交換の手配を行ないましょう。

夏季休暇前の大掃除の実施

夏季休暇の前に、大掃除を行う企業は多いようです。

「書類等の保存と破棄の基準を決めているか」「ゴミの分別方法は周知したか」「掃除道具はそろっているか」「廃棄物処理業者への手配は済んでいるか」など、やるべきことを1つずつ確認しながら手配を進めます。

台風等の災害対策

8月から9月にかけては台風など風水害が多発する時期です。近年甚大な被害をもたらす自然災害が増えています。気象庁の情報などから先回りして対応できることもあります。

いざというときに備えて、あらかじめ具体的な基準を定めておくほか、次のポイントを点検しておきましょう。

- ① オフィス・工場での商品・設備の水濡れ防止対策
- ② 緊急時の行動基準の明確化と周知徹底（機械の運転停止、火気の始末、避難場所の指定、ハザードマップによる危険箇所の確認など）
- ③ 非常用医薬品、備品の追加、確認
- ④ 緊急時に持ち出す重要書類などの表示と区分保管の徹底
- ⑤ 緊急連絡網・体制の整備・防

災害タイムラインの作成

防犯体制の点検・整備

オフィス荒らしや放火などに遭うと、金銭的な被害だけでなく、最悪の場合、社員の生命が脅かされる危険があります。

防犯設備等の点検・整備を進めるとともに、日頃から防犯意識を高め、非常時の対応を想定しておきたいものです。

中元・暑中見舞状の後処理

中元や暑中見舞状を受け取った場合は、礼状を速やかに返信します。立秋（ことしは8月7日）以降に届く場合は「残暑見舞い」となるので注意しましょう。あわせて贈答記録や顧客名簿と照合し、情報の追加・訂正を行ないます。

最近では、経費削減や虚礼廃止の観点から、中元・歳暮を見直す企業も増えています。本当に必要なものかなど、自社の贈答のあり方を再検討し、経費削減につなげましょう。

衣替えの準備

10月から衣替えを予定している企業では、事務服などのサイズや必要となる枚数を確認し、準備に取りかかりましょう。



来月の計画を立てるために

9月1日は防災の日（8月30日～9月5日は防災週間）です

秋の全国交通安全運動が展開されます（9月21日～30日）

3月決算法人では、上半期の最終月です